

編集方針と特色 ともに考え語り合う副読本

1 学習指導要領の改訂と道徳教育

平成20年3月に告示された学習指導要領は、前回(平成10年)の「生きる力」をはぐくむという理念を継承しながら、その基盤となる道徳教育の重要性をより明確に強調したものになっている。

「第1章 総則」では、道徳の時間の役割を道徳教育の「要」と明記し、「児童の発達の段階を考慮して」行わなければならないとした。道徳教育の目標についても、改正教育基本法における教育の目標などを踏まえ、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し」、「公共の精神を尊び」、「他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し」が新たに加わった。

「第3章 道徳」では、目標を「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め」という文言に変えることで、中学校段階における目標「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚」とのつながりを明確にした。内容については、低学年に「勤労」が、中学年に「個性伸長」が新設され、社会参画、健全な自尊感情の育成を意図した改訂となった。こうした考えを受けて、指導内容の重点化についても、各学年を通じて「自立心や自律性、自他の生命を尊重する心」を、低学年では「人間としてしてはならないことをしないこと」、中学年では「集団や社会のきまりを守ること」、高学年では「法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと」を挙げ、これまでよりもより具体的で、現在求められている教育課題に即した指導を求めている。さらに、「道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること」、学校と家庭、地域社会が連携を密にし、一体的な道徳教育が行われるよう、「道徳の時間の授業を公開」することも明記された。

2 編集の方針

「道徳 きみが いちばん ひかるとき」の編集委員会は、この学習指導要領の改訂を受けて、次の編集方針を立てた。

- ・よりよく生きようとする心と実践力を育てる。
- ・家庭での道徳教育との橋渡しをする。
- ・多様な学習指導を可能とする。

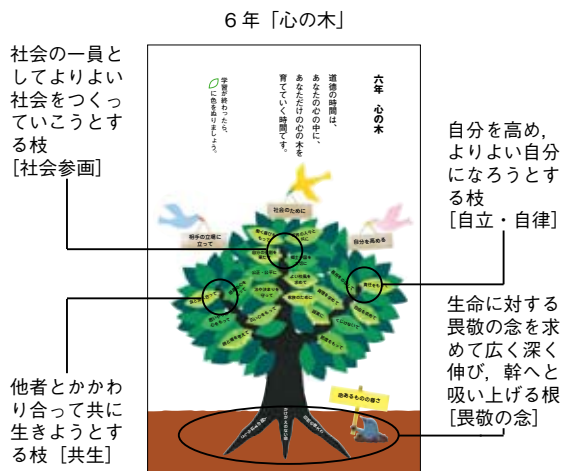
「道徳 きみが いちばん ひかるとき」は、昭和62年の創刊以来、一貫して「人生を創造してゆく知恵としての道徳」を掲げてきた。道徳はしつけや掟とは異なる。それは、よりよく生きることへのあこがれであり、よりよく生きることを求めて、時には古い掟を破ることも努める創造的な営みである。であるからして、道徳の時間は、教師が一方的に児童に教える時間ではなく、教師と児童が、ともに考え語り合う時間でなければならない。平成21年度版「道徳 きみが いちばん ひかるとき」は、ここに家庭や地域を巻き込み、児童を取り巻くすべての人々がともに考え語り合える道徳に寄与したいと願って編纂した。

3 特色

○心の成長の実感をもたらす >>> 心の木

「道徳の時間は読み物を読むけれど、国語の時間とどこが違うのかな。」こうした問いをよく耳にする。「道徳の時間は心を育てる時間」、このことを児童が自覚し、自分の心の成長を実感してほしいという願いを「心の木」に託し、目次に掲げた。

「心の木」は、大地に深く根を下ろし、「生命に対する畏敬の念」を吸い上げ、人間尊重の幹を伸ばし、



「自分を高め、よりよい自分になろうとする」枝、「他者とかかわり共に生きようとする」枝、「よりよい社会をつくろうとする」枝を大きく張り出す。枝に茂る葉は、副読本を通して1年間にはぐくむ道徳性である。大地は、生徒を見守りはぐくむ家庭、学校、地域社会といえるであろう。この「心の木」は、「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」にも掲げ、9年間をかけて徐々に大きくなり、豊かな緑をたたえる木に成長することを、児童・生徒が自ら確認できるように工夫した。

また、「心の木」の葉の文言を、各資料のタイトルの横にも記した。道徳の時間の課題を自覚し、自らの心を見詰め、教師や学級の仲間と「ともに考え語り」合ってほしいと願ってのことである。そのため、文言には価値の押し付けにならないよう細心の注意を払った。

なお、この「心の木」には、道徳の時間はどんな時間なのかを保護者にも伝える役目を担っている。子どもの心がどのように育っているのかを把握し、「ともに語り合う」手立てとして、家庭でも活用していただきたい。

○現実の課題に向き合い、乗り越える力を育てる

>>> 四つのコーナーとソーシャルスキルトレーニング

「コーナー」とは、児童が直面している課題を課題を取り上げ、道徳の時間と学級活動や他教科での学習活動、家庭や地域との関連を図り、具体的な実践へと発展させようとする試みである。

・共に生きる【各学年】

支え合い、共に生きようとする態度を育てるコーナー。学級活動で活用できるコラムと資料で構成されている。

・「いじめ」について考える【3年以上】

いじめをしない、させない、見過ごさない力を育てるコーナー。学級活動で活用できるコラムと資料で構成されている。

・自然を守ろう【3年以上】

資料の後ろに具体的な環境保全への取り組みを紹介したコラムを付け、道徳の時間に高めた環境への意識を実践活動へとつなげる。

・情報社会に生きる【3年以上】

資料の後ろに、道徳の時間と情報モラル指導を関連させるためのコラムを付けた。

また、各学年ともにソーシャルスキルトレーニング

「伝えよう、わたしの気持ち」を置いた。これは、特にいじめ問題とのかかわりを強く意識してのことである。1・2年ではいじめを起こさない人間関係づくりの基礎を、3年以上ではいじめを許さない、見過ごさない勇気と実行力を得るための手立てとして活用していただきたい。

○心に響き、感動を呼ぶ資料群

「ともに考え語り合う」ためにいちばん重要な役割を担っているのは資料である。児童の心に響き、教師の心にも保護者の心にも響く資料を厳選した。感動は、人の心を動かす。その心の動きが「いかに生きるか」という深い思考を生む起爆剤となる。押し付けではない自発的な思考は、必ずや行動へと転化する。感動にはそうした力があるのである。

収録資料は、物語、詩、エッセー、ノンフィクション、伝記、児童作文、活動型資料など、さまざまな分野から感動性の高いものを選び、高学年では朗読劇の手法を取り入れたシナリオも収録した。朗読劇は、読解の過程を短縮して主人公の葛藤を具体的にイメージ化してとらえることができる手法である。

また、新しく「読書案内(1・2年は「本はなかよし」、3年以上は「心の本箱」)」を特設した。このページを通して、より多くのすばらしい作品に出会ってほしいと願っている。読書活動などに活用していただきたい。

4 重点内容項目

編集の方針や学習指導要領を考慮、またそれぞれの学校で、児童の実態や学校の特色などを踏まえた指導計画が作成できるように、各学年ともに次の内容項目に複数の資料を収録した。

- 1-(1)望ましい生活習慣、節度・節制、自立
- 2-(2)思いやり、親切
- 2-(3)友情、信頼
- 3-(1)生命尊重
- 3-(2)自然愛、動植物愛護、環境保全
- 4-(1)公德心、遵法、権利・義務

また、低学年では「1-(3)善悪の判断、勇気」「2-(4)感謝」を、中学年では「4-(2)勤労、奉仕」「4-(6)愛国心、国際理解」、高学年では「1-(3)自由、自律・責任」「4-(3)役割の自覚と責任」「4-(7)郷土愛、愛国心」にも複数の資料を置いた。